

1 学校として目指す授業

一人一人の「目標達成型」を重視し、児童が主役になる授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語では、【C読むこと】の領域で国や都の平均を下回ったが、それ以外の領域は都や国の平均を上回っており、国語の力がついてきていることが分かる。 ・算数では、【図形の面積の求め方や作図】【割合】【異分母の分数の計算】【比例】が国の平均を下回っており、特に図形が弱い。 ・理科では、全領域で国の平均を上回っており、	体験的な活動が家庭でも減っている分、積み木遊び、立体迷路等をしていない。そのため、算数では図形の領域が弱い。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

どの学年においても、授業の内容がよく分かる」と回答している児童がとても多い。しかし、教科の学習が得意だと回答している児童は少なくなっている。このことから、学習には前向きに取り組んでいるものの、学習内容の理解が不十分な児童が多い傾向があることが考えられる。そのため、児童が自らの表現力を駆使し、理解したことを自分の言葉でアウトプットできるような指導展開をしていく必要がある。また、児童が「知識及び技能」を獲得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について考えることができるように支援していく必要がある。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（5年生）

国語は、「読む」ことの高正答率が高いが、漢字や慣用表現、適切な接続詞や活用形を選ぶ等の言語事項の領域では正答率が下がる傾向にある。
 算数では、「割合」や「式による表現」、また小数、分数を使った加法以外の演算の仕方・考え方の部分の正答率が低い。
 また意識調査の結果によると、学習に対して前向きな反面、誤答の後復習や直し直しをしていない実態がみられる。これらをふまえると、上記のような課題の残る領域を重点的に学習していくと共に、平素の学習から、児童自身が「『わからない』をそのままにしない。」ということ徹底できるような、具体的な場面を捉えて支援していく必要がある。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
ベーシックドリルでは、3年生と6年生の正答率が他学年に比べて低い結果となった。特に、6年生の「図形」が著しく低かったが、3年生の「はこの形」の正答率も低い数値であったことから、低学年のうちから図形に苦手意識をもっている児童が多いことが分かった。また、「単位量当たりの大きさ」や「速さ」の正答率も低かった。「割合」についての理解不足や文章題を読み解く力が弱いこと、計算ミスが多いといった傾向があるため、基礎基本の定着や読む力を強化していく必要がある。

3 児童の学力・学習状況等の課題

国語科では、語彙の不足や文章の構成力について課題が見られる。算数科でも割合や複合図形について理解が不十分な児童が多い。これらの課題の背景には、児童が自らの課題を解決する力が十分ではないことが考えられる。そこで、国語科では読書活動を継続して行うことで、読解力や思考力を高めていく。漢字学習にも力を入れ、既習漢字を実際の場面で活用する活動を計画的に展開する。また、詩や俳句の暗唱などの日常的な表現活動を通して言語力の向上を図る。算数科では、得点率が低い分野の復習を充実させ、学習結果資料を配布して児童が自分の理解度を把握しやすくする。さらに、タブレット端末を活用し、児童が個々の課題に合わせた復習を行う機会を増やすことで、自ら課題を見つけ、主体的に解決していく学習習慣の定着を目指す。

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

- ・一単位時間の中で「めあて」を明確にした上で、学習を進めているか
- ・毎時間「ふりかえり」の時間を設定し、授業での学びを児童自身が振り返るようにしているか
- ・一人一人の「目標達成型」を重視し、それぞれの児童に「苦手としていること」を見つめさせ、引き出させる授業ができているかどうか
- ・「子供を主語」にした授業を重視し、「先生が指示して作業させる」授業からの脱却をしているかどうか

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・文字の習得、正確な読み取りができるよう、音読や読書活動、清四漢検を行い、言語力と想像力を高める。 ・対話のよさや楽しさに気付けるように、ペアでの話し合い活動を行い、話す聞く力を高める。				・計算能力を高めるため、計算カードやドリルパークを活用し反復練習する。 ・文章問題を解く力をつけるため、立式する際、図や絵で表す。			・体験活動を多く取り入れ経験の中で気付きを促す。 ・思考ツールを用いて気付きを可視化する。 ・タブレット活用し、自分の考えをまとめ、友達と比較したり意見交換したりして、学びを深め			・めあてを明確に示し、1時間の中での変容を振り返る時間を設ける。 ・児童の「やってみよう」「表現したい」から動く授業展開を行う。		・自らのめあてを明確にし、主体的に作品製作、鑑賞を行う力を養う。				・児童自らのめあてを立て、易しい運動遊びを楽しく行い、運動の基礎となる動きを身に付ける。 ・教師による声掛けや児童同士の交流を通して活動を振り返り、ルールを守り、仲良く運動する態度を育む。					・自分事として考えを深められるように、具体物や絵の提示、動作化を行い教材理解を高め、友達と意見交流をしたり、ワークシートを活用したりして、道徳の実践意欲を高める。
中学年	・学習のゴールを意識し、並行読書を取り入れながら学習意欲を持続させる。 ・清四漢検、ドリルパーク、小テストに取り組み、漢字を定着させる。		・資料や映像を用いて、興味をもたせ、情報を読み取る機会を増やすことで、資料活用能力を養う。 ・新聞を作る等目的をもって課題に取り組ませる。		・四則計算、図形問題に関し、具体物やドリルパークを用いて、反復練習する時間を確保し、基礎基本の定着を図る。 ・数量の関係を図や数直線などに表現したり、式の意味を読み取らせたりしている。		・予想を立て、見通しをもって観察や実験を行う問題解決型学習を行う。 ・実験結果から考察をまとめたりする力を養う。				・自らの課題を見つけ、グループ活動を取り入れる中で、教え合い、解決できるような活動にする。 ・めあてを明確に示し、1時間の中での変容を振り返る時間を設ける。		・自らのめあてを明確にし、主体的に作品製作、鑑賞を行う力を養う。 ・作品製作、鑑賞活動において、児童が互いに良い所を認め合い、意欲的に活動できるようにする。				・基本的な動きをもとに、児童が体の動かし方を視覚的に考えて活動できるようにICTやカードを活用して振り返る時間をつくる。 ・めあてを明確に示し、学び合いの時間を設け、児童同士でアドバイスしあえる環境をつくる。		・ペアやグループ学習での協働的な活動を通して外国語への表現力を高める。 ・めあてに対する振り返りを毎時間行い、次時の学習につなげていく。		・グループ活動を取り入れる中で、考え・議論し合う活動にする。 ・振り返りカードを活用しながら、日常生活へのフィードバックを行う。	
高学年	・対話的な学びを意図的に設定し、多様な考えに触れ、学びを広げる活動を多くする。		・個人や集団で資料を読み取る時間を設け、対話的に学び広げられるようにする。		・少人数指導での担任間の情報共有方法を改善し、割合や小数の演算のような課題領域は特に重点的にタブレット等での復習が日常的に行えるようにする。		・一人一人が実験できる機会を保障し、個々の技能の定着を図るとともに、協働的な学習を通して条件を整理しながら実験方法を考えたり、実験結果を考察したりできる授業展開を行う。				・課題を明確にした上で、児童自身でめあてを考え、見通しを持ちながら主体的に解決できるような環境を作る。 ・ICTや振り返りカードを活用して、自らの課題を見つけ、気づきを共有する時間を作る。		・自らのめあてを明確にし、見通しを持ち、主体的に作品製作、鑑賞を行う力を養う。 ・作品製作、鑑賞活動において、児童が互いに良い所を認め合い、ICTを活用して、自らの考えを発信できる。		・調理計画をグループで立て、調理実習を行い、振り返るようにすることで、主体的に対話的な学習となる授業展開を行う。また、実習したことについて気づきや学びをスライドや家庭科ノートにまとめるようにする。		・熱中症に充分配慮した上で、授業内の運動量最大大化と共に、放課後など学習外の場面への広がりやねらいとした活動を取り入れる。		・外国語を用いた表現において、既習事項を確かめたり活用したりできるように意識させたい点をTeacher's Talkで提示する。また、必然性のある状況・場面の設定を行った言語活動を行う。		・道徳的な価値に気づき、自分の生き方に触れられるような時間を授業の最後に設ける。	